

## I. 研修について

高齢化に伴い、前立腺癌をはじめとする泌尿器科疾患は増加傾向にある。特に、排尿障害は高齢者に限らず多く患者が困窮している病態であり、将来、泌尿器科を専門にしない予定の研修医も、泌尿器科の研修を受けることは非常に有用であると思われる。

## II. 研修の到達目標

臨床医として必要な泌尿器科疾患患者のプライマリ・ケアや全身管理の基本的知識と技術を修得する。

1. 泌尿器科の基本的な理学的検査の理解と手技の習得：腹部・外陰部・直腸内触診所見の取り方と理解
2. 泌尿器科検査法の理解と手技の修得：腹部超音波検査、膀胱鏡、前立腺生検など
3. 基本的な泌尿器科疾患に対して適切な治療方針（保存的治療・手術的治療）が決定できる
4. 泌尿器科の基本的処置法の習得：導尿、尿道カテーテル留置など
5. 泌尿器科救急患者の処置ができる

## III. 医師数〔うち臨床研修指導医講習修了者数〕（平成 29 年 3 月現在）

・常勤医師 3 名 [2 名]

## IV. 学会認定医・専門医・指導医（平成 29 年 3 月現在）

日本泌尿器科学会認定専門医(3 名)・指導医(3 名)

泌尿器科腹腔鏡認定医(1 名)

日本泌尿器科内視鏡認定医(1 名)

## V. 施設認定

日本泌尿器科学会専門教育施設